
小さき剣士と小さき魔法使い

なろー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小さき剣士と小さき魔法使い

【Nコード】

N7528P

【作者名】

なろー

【あらすじ】

天才剣道家、川添珠姫——タマキ——とその幼なじみの中田勇次——ユージ——はこの春、麻帆良学園高等部に入学した。そこでタマキたちは魔法と出会う——。

これは魔法先生ネギま！とBAMBOO BLADEのクロスオーバー作品で、二人が室江ではなく麻帆良に行ったら、というIfです。正直、剣道要素はあまりありません。

ネギま要素強めで、タマちゃんとユージくんはネギまでも通用するよう強化されてますのでご注意ください。

まだまだ未熟者ですが、よろしく願います。

室江と麻帆良

夕日がやわらかく赤く照らす中、土手を二台の自転車が走る。

「……ユージくんは、進路どうするの？」

「ん、俺？ 俺は——今、ちょっと迷ってるんだよね」

「迷ってる？」

自転車をこぎながら、ショートカットの髪の小柄な少女が躊躇いがちに、さわやかそうな少年に話しかける。

今の時期は夏。彼女たちは中学三年生で来年はいよいよ高校生。今ごろの時期にはもうおおその進路は決めていなければいけない。

「うん。スポーツ推薦をもらって麻帆良に行こうかな、って」

「麻帆良？」

「そう。幼等部から大学部まで、様々な学術機関が集まってできた巨大な都市——麻帆良学園都市」

「……ユージくんはそこに行くの？」

「んーとね……そこか、近くの高校のどっちかにしようかと思ってるんだ。」

俺は剣道ができればそれでいいんだけど、麻帆良はマンモス校だから部員もいっぱいいるだろうし、設備も整ってるだろうからそっちもいいかなって。

……だけど麻帆良は全寮制なんだよね。そこが問題っていうか――

「全寮制……」

少年は小学校のころから、少女の実家が営む剣道場に通い剣道をしていて、剣道が大好きだった。正直、剣道ができればどこでもいいというのが本心ではあるが、よりよい環境があるのならそちらにも興味がわくのが人間というものだ。

“全寮制”という話を聞いて、少女はすこし思案顔になる。

「全寮制ってことは、そっちに通うことになったらユージくんは引越すことになるんだよね？」

「？ うん、まだ決めてないけどね」

それを聞いてさらに少女は考え込んだ。

無言のまま考え込む少女に、少年は笑みを浮かべながら問いかける。

「タマちゃんはどうするの？」

「……あたしは――。」

ユージくんが麻帆良に行くならあたしも行くのかな……」

「え？ タマちゃんも？」

「うん」

少年の問いに少女はすこし悩んだが、顔を若干うつむかせながら

答える。

それに対して少年は意外そうな顔をした。

「えと、なんで？」

「……なんとなく、かな」

「ふーん……？」

少年と少女は小学校以前の幼なじみで、今までずっと一緒にいた。だから一緒の学校に行くと言われて嬉しくは思ったが、理由がわからなかった。

少女は自分と違って剣道にそれほど興味があるわけでもない。それに他人とコミュニケーションを取るのも苦手だから、自分から進んで新しい環境に行くとも思わなかった。

理由を聞いてみてもはぐらかされるし、彼女なりになにか考えがあるのかな、と考えて少年はとりあえず納得しておくことにした。

それからも少々、雑談をして各々の自宅への帰り道に向かう、分かれ道に差し掛かった。

「それじゃ、タマちゃん。また明日」

「うん、また」

分かれ道で一旦、一時停車して別れの挨拶を述べつつ手を振り、別れる。

自宅に向かう少年の背中を見て、少女は先ほどのことを考える。

——進路が分かれる——

それぐらいなら少女は、すこし寂しいな、ぐらいに考えてあまり気に留めなかっただろう。しかし少年の進路先が問題だった。

全寮制ということは、大型連休でもない限り、こちらにあまり帰ってこれないということだ。

少年と少女はいつも一緒だった。幼少のころはよく一緒に遊んだし、実家の剣道場でともに鍛錬もした。

その少年は唯一の家族である父を除けば、自分の最大の理解者であると思う。その少年と離れる——そう考えると、少女はとてつもない喪失感に襲われた。自分が幼いころ母を亡くした時の、あのような喪失感。

少女は、とたんに少年と離れるのが怖くなった。

気づけば、自分も少年と同じ進路に進むと口にしていた。

自分のことになると暴走しがちになる父を、どうにか説得しなければならぬ、と考えながら少女は帰路についた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7528p/>

小さき剣士と小さき魔法使い

2010年12月31日06時06分発行